

麦播き作業中盤



JA筑紫麦出荷者部会は、11月中旬から麦の播種を始めました。裸麦と小麦の2品種を308haの圃場で栽培する計画です。今後は、麦踏み・追肥・土入れ等の作業を行い、翌年5月頃から収穫が始まります。

部会は、部会員51人で活動し、現地視察や研修会の実施により栽培技術の向上に励みます。高品質で安全・安心な麦づくりを進め、商品性の高い麦作りを目指しています。農産課の担当職員は「雨が続いて作業の遅れも見受けられるが、安全に作業を進めるように呼び掛けていきたい。」と話していました。

試験場に職員2人留学／研修課程を修了



JA筑紫は、営農相談に対する指導力の強化と人材を育成するため、2012年度から5年連続で福岡県農林業総合試験場の野菜部でJA職員の留学研修を行っています。

今年度は、9月～11月の3カ月間、JA職員2人が留学。試験場で修了式が行われました。式では、修了証明書が手渡され、無事に研修課程を終えました。

研修は、圃場での実践を中心に、野菜に関する知識の向上を図り、栽培技術に関する情報収集等を行いました。

JA営農生活部農業振興課の山本琢磨さんは、「研修で学んだことを、今後の業務に活かしていきたい。」と決意を述べました。JAは、園芸作物振興を図る為、職員の営農指導の強化に引き続き取り組んでいきます。

児童が米作り学ぶ



JA筑紫の組合員と農業振興課の職員が、11月29日に筑紫野市立山家小学校で「お米の授業」を行いました。授業では、組合員とJA職員がビデオで播種から収穫までの作業の流れなどを説明。児童は熱心に見入っていました。

指導を行ったJA筑紫組合員の松原英敏さんと、農業振興課の神崎光成さんは、「農業のことは大事。近くの田んぼや畑に目を向けてみて」と話していました。

親子で食育学ぶ



JA筑紫農産物直売所ゆめ畑大野城店は11月26日、大野城市北コミュニティセンターで「親子料理教室」を開催。安全・安心な地元野菜を使った料理に親子で挑戦しました。この企画は、食育活動の一環としてJAが考案したもの。管内に在住する21組の親子計50人が参加しました。

調理は、ゆめ畑出荷者で菓子工房を主宰する古賀美里さんが講師を務め、「旬野菜のキッシュ風」や「大根葉のカレー炒め」などの5種類の料理に挑戦。普段捨ててしまいがちな大根葉やブロッコリーの芯などを使用し、参加者からは「地産地消の大切さが伝わった」と好評でした。ゆめ畑大野城店の緒方一寿店長は「親子で楽しく料理を完成させることが出来て良かった。地産地消に繋がる活動を、今後も継続していきたい」と笑顔で話していました。

「新鮮」をPR！

JA筑紫農産物直売所ゆめ畑大野城店は11月18日、福岡県が主催する「直売所出張販売IN福岡県庁」に参加。福岡県庁1階ロビーで地元野菜の出張販売を行いました。新鮮な野菜は、好評のうちに完売しました。

福岡県では、食育・地産地消を県民運動として展開。毎月19日の「食育の日」に合わせ、県庁内で地産地消の拠点である直売所の出張販売を実施し、地産地消に対する意識向上と直売所の魅力をPRしています。

当日は、出張販売の他、県庁内にある「よかもんカフェ」の料理にJAの地元野菜が使われ、多くの人が来店しました。ゆめ畑大野城店の緒方一寿店長は「地産地消の推進と、JAの農産物をPR出来た。今後も地元野菜のPR活動に力を入れていきたい。」と話していました。

エコープ品のおいしさ伝える



JA筑紫女性部消費生活委員会は、JA農産物直売所ゆめ畑筑紫野店で、女性部がお薦めするエコープマーク品の試食販売会を行いました。安全・安心なエコープマーク品のおいしさを、より多くの人に知ってもらおうと企画しました。

当日は、4つのエコープマーク品を使い、「ピーマンのしおふき昆布和え」など7種類の試食を準備。ピンク色の法被を着た委員会メンバーが、来店者にレシピなどを説明しながら試食をふるまいました。来店者は「どれもおいしかった。自宅でも挑戦してみたい」と話していました。

渉外担当者が直売所で貯金・共済PR



JA筑紫の金融渉外担当職員が11月18日、農産物直売所ゆめ畑筑紫野店で、JAの貯金・共済事業のPR

活動を行いました。

この取り組みは、金融渉外担当職員の発案で初めて企画。直売所の利用客にJAの貯金・共済事業をより知ってもらおうと、店舗入り口にカウンターを設け、職員が利用客にJAの貯金・共済事業をPRしました。子ども連れの若い母親など、普段JAとの取引がない利用客が、職員に質問する姿が見られました。

利用客は、「直売所にはよく来るが、JAの貯金や共済は利用したことが無かった。気軽に質問できたので、今後ぜひ利用してみたい。」と話していました。

活動の成果を披露



JA筑紫女性部は11月17日、JA本店で「第14回趣味・文化グループ活動発表会」を開きました。発表会は、女性部グループ間の活動発表を行うと共に、日頃の練習の励みにする事を目的としています。

当日、各活動グループと応援に訪れた参加者は約300人。日本舞踊・カラオケ・フラダンスなどを舞台上で披露し、会場は大いに盛り上がりました。順番を待つ部員や応援に駆け付けた参加者は、仲間にエールを送っていました。また、ロビーには、手芸・さげもん・生け花などの作品が展示され、会場を華やかに彩りました。ステージで発表した部員は「毎年、発表会をととても楽しみにしている。練習の成果を見てもらえて嬉しい。」と笑顔で話していました。

機械利用組合が法人化・法人経営を学ぶ



JA筑紫機械利用組合連絡協議会は11月16日、「法人化・法人経営に関する研修会」をJA本店で開催。協議会メンバー(4法人・4機械利用組合)と行政、JA職員が計30人参加しました。

協議会は、経営管理能力の向上並びに機械利用組合の相互の協調体制を確立し、同組合の発展と米・麦・大豆など土地利用型作物の生産体制の向上を目的に活動しています。

当日は、九州北部税理士会の田村浩敏税理士を講師に迎え、農業法人の概要について説明。参加者は真剣な眼差しでメモをとっていました。

鬼木満男会長は「法人化のメリットとデメリットを理解し、組織の更なる拡大と強化を目指していきましょう。」と挨拶しました。

地域のまつりに参加



山家支店とJA青壮年部山家支部は、筑紫野市山家で行われた「山家宿まつり」に参加しました。

「山家宿」とは、江戸時代に長崎街道沿いの「筑前六宿」の一つとして開かれた宿場。まつりは、山家小学校と地域住民が催しています。

焼き餅や、山家名物の「白おこわ」の振る舞いなどのブース、地元の小学生を中心に編成された大名行列などでにぎわいました。山家支店の職員と青壮年部山家支部は、行列に参加。また、新米の試食・販売や情報誌『家の光』をPRしました。森木和生支店長は「長く続くまつりに参加でき大変よかったです。」と話しました。

JA青申会が感謝状授与



JA筑紫青色申告会は11月14日、筑紫税務署で開かれた「平成28年度税務署長納税表彰式」に参加し、感謝状を受け取りました。

申告会は、多年にわたり申告納税制度の普及と発展並びに納税思想の向上に尽力。今回、その功績が称えられました。式では、筑紫税務署長から申告会の白水義和会長へ感謝状が手渡されました。申告会は、現在1126人が加入。研修会などを通じた税務・会計知識の習得による適正申告に取り組み、充実した活動と魅力ある会を目指しています。

「いきいき商工農フェスタ」で、地元の米をPR



JA筑紫は11月12日、筑紫野市文化会館で開かれたイベント「第12回いきいき商工農フェスタ」に参加。JA筑紫産のもち米でついた紅白餅の餅まきを実施し、食と農のPR活動を行いました。

このイベントは、商工農業者と消費者のふれあいの場として開催。JAも、ふれあい活動の一環として参加しています。当日は、農業女性グループのメンバーやJA職員が合同で、JA筑紫米の試食を配って美味しさをPRしました。

また、JA筑紫マスコットキャラクターの「ちくしんぼー」と「ゆめっぴー」もイベントに参加し、会場を盛り上げました。

米とブロッコリーについて授業



JA筑紫はこのほど、筑紫野市立筑紫東小学校の社会科学習に参加し、米とブロッコリーの栽培について授業を行いました。3年生の児童が実際にブロッコリーの圃場や農業機械倉庫などを訪れました。

圃場を管理する田中修一さんも講師として授業に参加。農業機械や水路などを児童に見せながら、説明を行いました。児童からは、「どうやって田んぼに水を入れるの?」、「ブロッコリーはどうやって収穫するの?」など、多くの質問があがりました。児童は圃場や機械などを興味深く見学していました。授業に参加した児童は、「ブロッコリーがどうやってできるのか、初めて知った。お米も野菜も大事に食べたい」と満足げな様子でした。

ショウガ、おおぶり！



JA筑紫生姜出荷組合は11月1日、ショウガの収穫開始に合わせ、役員とJA担当者による巡回を実施。収穫作業を進める部会員の圃場で、生育状況を確認しました。

組合は、豊富な水源と肥沃な土壤に恵まれた筑紫野市山口地区でショウガを栽培。同地区は、明治時代から作付が続いている歴史ある産地です。栽培品種は、爽やかな辛味と香り、瑞々しく柔らかい肉質が人気の「お多福ショウガ」。収穫したショウガは、筑紫野市の学校給食や、種ショウガとして出荷を予定しています。翌年3月に出荷する種ショウガは、収穫後、横穴式の天然の貯蔵庫で貯蔵されます。生姜出荷組合・組合長の末次芳幸さんは「暖かくて雨が多かったので、丸々と太ったショウガに育っている。天候に恵まれて良かった。」と笑顔で話していました。